

12月豊橋市議会傍聴記

地方政治
クリエイト
伊藤 秀昭

■まちづくり

近藤喜典氏(自民)は、まちなか活性化と郊外活性化の考え方について取り上げた。

都市計画部長は、立地適正化計画を策定し、郊外の地域拠点では都市機能を維持。交通結節機能の強化を図り、その周辺に居住誘導区域を設け、持続性を確保して「歩いて暮らせるまち」を具体化する」と答弁した。

近藤氏は、郊外における複合施設がにぎわいの創出につながる」と持論を展開した。

■ガチンコ議論
長坂尚登氏(だいきん)は市長選にかんがみ、8つの角度から市長に質問し

た。8年前に多選批判し、市長は三期までの潔さから応援した市民もあつたはず。多選禁止の考えを勝手に変えたのか。

「新しいものに取組むことに、慎重な経営者、若者が多い」との根拠はなどと、鋭く市長に迫った。

いづれも副市長が、苦し紛れの答弁でかわしたが、長坂氏は市長の政治姿勢そのものを聞いているのだから、市長が自らの言葉でガチンコ議論すべきではないか。市民も期待していたはずだ。

■地域コミュニティ
山田静雄氏(自民)は、行政と地域コミュニティの連携について取り上げた。

その中で、自治会業務の効率化のために負担軽減について議論があつたが、現場で、特に共同募金や賛助金を集めに歩く組長の意見などをよく聞いて、検討してもら

ると主張。「業務の品質低下や労働環境の悪化につながることを防ぐ観点から制度の改定を行った」とする当局とは、今回も議論は平行線で終わった。

■放置自転車対策
放置自転車の現状と課題について取り上げたのは尾林伸治氏(公明)。

建設部長は「パトロールの強化などに取り組んでいるが、依然、無秩序な駐輪が散見される。再開発事業の関係で狭間公園南駐輪場が利用不可になるため、地下駐輪場への誘導が課題」とした。

尾林氏は豊橋駅東口、西口の地下駐輪場の老朽化対策や大方自治の理念に反

型自転車の駐輪ニーズに添えるよう要請した。

■未来への投資
伊藤篤哉氏(自民)は市長の目指す豊橋の教育について様々な角度から質問した。

教育長は「教育を未来への投資に上げるために、生きる力の土台となる基礎学力・体力を身

につけさせるともに変化の激しい社会環境にも対応できる教育機会の提供も必要であり、義務教育だけにとどまらない一貫した支援体制が必要」とした。

次代を担う子どもたちへの熱い思いがこめられた議論だった。

■朝ドラ誘致
松崎正尚氏(自民)はNHK朝の連続ドラマ

レビ小説に福島出身の古閑裕而氏と豊橋出身の妻金子(きんこ)さんの物語を東京オリピックに合わせ誘致する取り組みについて取り上げた。

企画部長はオリピックが開催される20年上半期の放送を目指すなら、18年には題材が決定する。よって17年の活動が大事であり、本年度中に体制を作り、福島市と共に誘致活動を展開するとした。

風雲急である。来年からの「おんな城主 直虎」の大河ドラマ館も、多米トンネルを抜けて車で30分の細江の「みおつくし文化会館」で準備中であり、これらも大いに利用すべきでないか。

■スポーツツーリズム
3日間の質問では一問一答を始め、たこともあり、課題を明確にし、対策まで提示する議論の展開が目立った事である。

議会改革とは、一人ひとりの議員力アップがすべてであることを痛感した。

創生へ、総力戦の活発な議論

最低制限価格
寺本泰之氏(紘基会)は建設工事の入札において、本年度から最低制限価格が約20%上げられたことについて、そのことにより2割以上の高額落札が増えることになり、「最小の経費で最大の効果を」とする地方自治の理念に反

宮澤知子氏(公明)は、総合動植物公園における「のんほいサーキット」について取り上げた。

動植物公園部長は月間利用者数が約3000人であったのが、6月に最高時速を25から40に上げて以来、10月には約1000人となり、安定的な利用者を確保でき

企業部長はオリピックが開催される20年上半期の放送を目指すなら、18年には題材が決定する。よって17年の活動が大事であり、本年度中に体制を作り、福島市と共に誘致活動を展開するとした。

風雲急である。来年からの「おんな城主 直虎」の大河ドラマ館も、多米トンネルを抜けて車で30分の細江の「みおつくし文化会館」で準備中であり、これらも大いに利用すべきでないか。

■スポーツツーリズム
3日間の質問では一問一答を始め、たこともあり、課題を明確にし、対策まで提示する議論の展開が目立った事である。

議会改革とは、一人ひとりの議員力アップがすべてであることを痛感した。